

第五次総合計画後期基本計画策定 第3回柏崎市総合計画審議会 議事概要

- 1 日 時 令和3年（2021年）7月16日（木） 午前9時30分から午前11時30分まで
- 2 場 所 柏崎市役所 多目的室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 樋口秀会長、三宮真美副会長、相田浩委員、近藤千鶴委員、山田秀貴委員、岡田和久委員、吉田匡慶委員、竹井みどり委員、三嶋崇史委員、霜田真紀子委員、大石友子委員
 - (2) 庁 内 総合企画部長、財務部長、市民生活部長、市民生活部参事、危機管理監、福祉保健部長、子ども未来部長、産業振興部長、都市整備部長、上下水道局長、消防長、教育部長、議会事務局局長
 - (3) 事務局 企画政策課長、同課長代理、企画係長、同係員

4 会議資料

【事前配布】

- ・資料1_令和3（2021）年度進行管理報告書案
- ・資料2_第五次総合計画後期基本計画 骨子案
- ・資料2_補足資料
- ・資料3_地区別の将来人口

【当日配布】

- ・会議次第
- ・資料4_第3回柏崎市総合計画審議会 席次表
- ・資料5_第4回分科会概要報告
- ・資料6_第2回柏崎市総合計画審議会 議事概要
- ・参考_第5回・第6回分科会予定表

5 会議概要

- (1) 会長挨拶
- (2) 議事

「令和3（2021）年度第五次総合計画進行管理」と「第五次総合計画後期基本計画 骨子案」について、委員により以下のとおり審議が行われた。

発 言 者

発 言 概 要

【令和3（2021）年度第五次総合計画進行管理について】

※資料1「令和3（2021）年度進行管理報告書案」の全般について、事務局が説明し、分科会で審議を行った各章の進行管理については、資料5「第4回分科会概要報告」を中心に、各分科会長から報告を受けた。

会 長 : 最初に、各審議会委員に意見を聞きたい。

委 員 : 健康・福祉について。就業人口の産業別の推移では、農業や漁業の就業者数が減少しており、若い人の担い手を増やしたいところである。若い人の転入により出産が増えれば病院の分娩機能が維持できていると思っている。現時点で私どもの病院では年間約400人の分娩があり、これが減少していくと医療の集約化が目前に迫っている。まずは2024年に働き方改革が厳格化されると、地域の分娩が少ない

と取りやめるよう県から指令が出てしまう。そうならないよう若い人が増え、定着していけるような環境があると良い。

高齢者関係では、コロナの関係でコミュニケーションやスキンシップがとれない状況にあり、また、退院後のリハビリも含め疾病予防が大事だ。これに対しては柏崎市で昔から進められているコツコツ貯筋体操のようなトレーニングが良いが、病院と行政が連携して、こうしたトレーニングを進めるのが良いと思う。

委員：3点ある。1点目は、産業・雇用について。地元購買率が低下し、コロナ禍もあってネット通販が活発化している。一方で、リアルな買い物をしたいという需要もあると聞いているため、こうした店舗の誘致を進める事業を計画することが必要だ。

2点目は、教育・スポーツについて。スポーツを市内で促進している女性に話を聞いたが、子ども教室にしてもスポーツ教室にしても、男の子が多く、女の子のスポーツ人口がまだ少ないとのことであった。女の子のスポーツ人口を増やし、かつ継続できるような取組を盛り込んでいただきたい。

3点目は、自治経営について。DVの法律的な部分になると我々専門家に迅速につないでもらうことが必要であり、このつなぎの部分のスムーズ化が望まれる。

委員：金融・経済が専門であるため、一丁目一番地となるとやはり人口減少の問題につきるのかと思っている。人口減少の解消には特効薬がない中、大学生に柏崎の企業のことを知ってもらう施策のアイデアとして、学生が取材する立場となり、インターン活動を通じて、企業のことをSNSやYouTubeで発信してはどうか。紹介動画を作ることによって、柏崎の企業のことをもっとよく見えてきて、非常に優秀な技術を持つ企業が存在することの気付きになる。企業側から発信するのではなく、学生が中に飛び込んで、学生自身が発見し、発信していくようなことに取り組んだらどうか。そうすると市内就職が増え、職場結婚も増え、人口減少の抑制に貢献するのではないかと思う。

魅力・文化について。米山プリンセスのブランディングの方向性について相談があった。発信するだけでなく、ものを出していくとお米の状態で行くため、お米と値段しか柏崎市に入っていない。しかし、米山プリンセスを食べに来ようという感覚だと、柏崎市でお米が加工されることで、他の商品や他の人たちとサプライチェーンができあがり、それによって経済循環ができるのではないかと。ブランディングでは、「いまだけ・ここだけ・あなただけ」という「3だけ」と言われるが、これを進めると、最終的に柏崎市の魅力、ブランドができる。柏崎市とは何なのかというイメージができあがると、解決するための行動がしやすくなるように思う。

委員：学生が取材するのは面白い。

委員：各分野の話を聞いて、「教育」を付けると一つにまとまると改めて思った。縦割りと言われてるが、この審議会でも横の繋がりができて良いと思う。学校における最近の教育には、防災教育、進路教育、健康の教育、柏崎の魅力の教育、地域の教育、専門的で少ないかも知れないが自治経営の教育などがある。今の子どもたちが大人になると、これらの教育がどこかに記憶されていて、十年後二十年後良い形で出てくればと思う。一方、今の大人に関しては、これらの教育を受けていない世代が多いため、子どもたちに感心させられることが多々ある。このため、親の世代も理解していくと、いろいろ世代が成長していくのではないかと。

大学に関して、新潟工科大学のCMが新しくなり、県外からの志願が増えてきている。学生に関する地元での就職率や定着率のデータに、市内の高校生が市内に残って欲しいという力もあれば、市外や県外に就職した子に戻ってきて欲しいという施策も取り上げながら、柏崎の魅力を作り続けていくと人口が増えていくのではないかと考えると、この審議会がとても重要な分岐点になるような気がするため、もっと熱い議論が必要であると思う。

会長：燕市では、全国に先駆けて、市外で学んでいる大学生に燕の産品を送ったところ、感動し地元愛を感じたとのことだった。柏崎市でも戻ってきてもらえるような仕掛けが必要だ。

次に、各分科会長から意見を頂きたい。

委員：教育・スポーツについて。コロナ禍にあってエッセンシャルワーカー、産業を支える方々は、昔から3Kのイメージがある。これに従事する人たちは市外からは求めづらく、地域から輩出していく必要がある。誰かがその仕事を担って行かなければならないということについて、小学校から意識させていくような教育に取り組んでもらいたい。

委員：産業・雇用について。一次産業の減少は若手の進出が少ないというところに要因があるという点については、分科会でも議論になったところである。行政支援で若い人が少しずつ入ってきてはいるが、一方で一次産業は、小さい企業や個人事業主が非常に多いため、若い人への教育ができない。このようなことが離職の原因の一つになっている。よって、ただ単に人を迎えるということではなく、迎えた人を教育していく仕組みが必要だという意見が出た。また、先ほどの委員の意見で、リアル店舗の需要があり、その誘致が必要ということだったが、分科会では、まずその前段階として、買い回り品が新潟や長岡などに取られていた流れが変化しつつあるという動きを認識すべきだという意見があった。こうしたことも踏まえ、柏崎としてどのような企業の誘致に走るのか、地元で新たな商品をつくるのかといったことを進めていく必要があると思う。また、学生による企業紹介という委員の意見については、分科会で、高校生や市内大学生に地元企業の説明をする機会を作ってはいるが、コロナ禍で集まって聞くということができない中で、オンラインを活用して進めるのが良いのではないかという意見があった。まずは地元企業に紹介動画を作ってもらい、学生がいつでも見られる環境を少しずつ作っていくことが大事だと思う。また、市外から若い人を戻すという副会長の意見には、企業という立場からは、市内にとどまってもらわないと労働力という点から、これから非常に苦しくなるため、地道ではあるが、学生に地元の企業を知ってもらう取組を一つ一つやっていくことになるのかなと思っている。

委員：分科会を通じて、障がい者、子育て世代、生活困窮者に対して非常に細やかな行政サービスが実施されていることが分かった。柏崎市はこうした制度が充実しているため、我々が人口減少にどう関わりが持てるかといった場合に、このような良い制度をもっとPRできれば、例えば、転入者が単身赴任ではなく、家族も一緒に来れば多少は人口が増えるのではないか。一方で、こうした制度から漏れるのは高校生で、療養中の学習機会は、小中学生にはあるが高校生にはない。県立のため、市でどこまでできるかは分からないが、高校生の学びの場について手助けして欲しいと思う。

また、リタイア(退職)された人はとても元気であるため、コツコツ貯筋体操では

少し不足という声がある。そういった人のための運動を、医療機関や専門のトレーナーと連携して考えて欲しい。

委員：子ども達が、将来、柏崎を担っていけるような流れを作ることが重要だ。働き方改革が進みつつあり、いろいろ改善されてきてはいるが、先生方は多忙でやるべき事が非常に多い。食育、家庭、IT化などもあり、ある程度負担軽減を進めるには親の力も必要かと思う。

人口減少が最も気になる。第二、第三の人生を田舎で暮らしたいという人はたくさんいると思われる。こうした人に手を差し伸べて、空き家のリノベーションによる支援があっても良いのではないか。

また、資料1の28ページ、「生物多様性の保全に対する意識啓発」において、イノシシを年間440頭捕獲したと示されているが、この他にハクビシンの被害が増えており、糸魚川や上越ではアライグマが増えてきていると聞く。近々柏崎にも来ると思われるため、早めの対策が必要だ。

委員：人口減少の歯止めの観点と柏崎の産業の維持の観点から、働き手を求めている人と働き口を求めている人のマッチングを、市で進めてもらいたいと考えている。法的に行政が職業斡旋はできないと回答を得ているが、民間の力を借りながら進めて欲しい。例えば、兵庫県ではコロナ禍で職を失った人と働き手を求めている企業のマッチングをしているという新聞報道があった。こうした事例を踏まえ、検討していただけるとありがたい。私が属する分科会では、移住・定住がテーマの一つであるが、柏崎がきれいだというだけでは実績につながらない。生きていくための働き口を確保することが重要だ。コロナ禍で仕事量が減少した業種と非常に忙しい業種の乖離があり、人を求めている市内企業は多くあるだろう。この辺りのミスマッチの解消を、市の施策で進めることができれば、人口減少の歯止めの一つになるのではないか。自身が会社の求人をする中で、全てのエージェントではないが、柏崎に営業に来て費用対効果がない地域であるため、あまり営業に力を入れないと聞く。企業が求人をして、なかなかマッチングしてもらえない不利な地域であるとも感じている。こうした点を踏まえて、より直接的な方法を市でも考えてほしいと強く願っている。

委員：DVに関しては専門家に迅速につないでもらうことが必要で、このつなぎの部分のスムーズ化が望まれるという委員の意見について賛同し、ぜひ進めて欲しいと思う。

また、学生による企業の動画作成の話があったが、新潟産業大学では、地域理解セミナーの中で、柏崎の魅力を伝える動画を作ろうという取組を進めている。どちらかというと自然や文化が中心ではあるが、企業の動画も作って行けたらと思う。

Iターン・Uターンについて、学生の話を知ると、一度は外に出てみたいがいずれば戻りたいとのことなので、いつでも戻れるような環境づくりが重要である。兵庫県ではワークシェアリングを進めており、また、いろいろな人材に来てもらうために、東京で募集活動を行い、応募は兵庫県出身の人だけでなく、東京生まれ東京育ちの人であったりする。このような形は行政だけではなく、民間企業でも作れるのではないかと思う。

【第五次総合計画後期基本計画 骨子案について】

※第五次総合計画後期基本計画 骨子案について、補足資料と地区別の将来人口もあわせて説明。

- 会 長 : 先ほどの議論も踏まえて、この内容で良いのかということについて、意見等をいただきたい。
- 委 員 : 補足資料について。重点戦略の一つに「子育て環境の充実」とあるが、柏崎市は子育て支援についてはかなり充実していると思われる。一つ気になったのは、先の委員意見にあった高校生が中退しなければならないような状況にあり、取り残されているということだ。今、全国で小中高校生の不登校の割合がかなり増えてきており、義務教育では対応ができていると思われるが、高校では不登校になると辞めていかなければならない。そのためのレスキューとして通信制の高校があり、実際、私どもの大学の医局の後輩に、一旦はドロップアウトしたが通信教育を受けて医学部に入り、産婦人科医として従事しているという事例がある。もう少しレスキューされるようなシステムが他にあっても良いのではないか。こうしたことも含めて、柏崎市は子育て環境が非常に充実しているという点を打ち出し、子育て世代を誘導していくという方策があると思われる。
- 会 長 : 非常に良い方策と考えるが、市はどのように考えるか。
- 子ども未来部長 : 不登校相談については、子どもの発達支援課で実施している。高校生以降の人に対しては、旧庁舎の教育分館にあるふれあいルームで相談支援を実施している。高校生が来て、時間を過ごす場所がある。そこには、臨床心理士や専門の相談員が待機しており、外に出かけたり、中で一緒に時間を過ごしたりすることで、高校生のフォローをしている。今回の市役所移転にあわせて設備等の充実も図った。実際に利用している高校生がおり、対応はしているがPRが不足しており、御理解いただけない部分もある。
- 委 員 : そこでは高校の卒業の資格を取れるような対応になっているか。
- 子ども未来部長 : 教育機関ではないため、学校に行っていない間のフォローとなる。資格取得や大検受験の指導などを実施しているわけではない。今後の検討となる。
- 委 員 : 例えば、上越や長岡には不登校の子のための通信教育があるため、受講できるような案内を出してもらおうと、社会復帰ができる子ども達が増えるのではないかと。是非検討されたい。
- 子ども未来部長 : 通信制の学校等についても、子どもたちに紹介することを通じて、将来のことも考えてもらうような指導をしていきたいと思う。
- 委 員 : 総論の人口指標であるが、前期で想定した以上に人口が減少しているのが現実だ。後期計画を策定するにあたって、前提を間違えると施策の有効性に影響を及ぼしてくると思われる。後期における将来人口の見込みは、どの程度の確度なのか、どのくらいの厳しさでみているのか。柏崎市と同じような規模で人口が減少している都市は他にありと思われるが、そうした都市を参考にしているのか。また、令和32年に合計特殊出生率が2.07とあるが、この記載の意図は何か。絶対的な目標なのか。人口減少について市民に危機感を持ってもらうということであれば、減少の緩和を前提とした推計をこの計画に盛り込むのはいかがなものか。
- 企画政策課長 : 2番目の質問について。合計特殊出生率2.07とは人口置換水準である。人口が増加も減少もしない均衡した状態となる合計特殊出生率のことであり、この率により推計したものである。これは柏崎市第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略に

において、設定されたものである。令和元年現在で1.51であるため、かなり高いレベルを目指そうとしているように見えるが、その部分はある程度国が設定しているところに則っている。

1 番目の質問について。将来人口についてはすでに前回の審議会で示しているところだが、令和2年国勢調査の速報値では、新潟県全体でもかなり厳しく、柏崎市においては前回の5年間よりも今回の5年間の減少幅は大きい。こうした現実を踏まえて、地区別でも示そうと考えたわけである。今のまま推移するとこのような展望になるということ共有し、より危機感を持ちつつ、計画期間の4年間にどのように対策を進めていくかにつなげていきたい。

会 長 : 示すとすれば、それを担保するような施策を用意しておかないといけない。楽観的な数字だけを、国が言っているからそのまま記載するのはいかがなものと思う。

委 員 : 補足資料について、基本方針は前期から引き継ぐという事で、子どもたち、若い世代、女性、高齢者に配慮されており、また、重点戦略では、子育て環境の充実と産業イノベーションの推進も大事なところだと思う。これらに異論があるわけではないが、子ども、若者、女性、高齢者に当てはまらない人を取り残さないようにしていただきたいし、そのことを計画のどこかで明らかにしていただきたい。人口減少に歯止めをかけることが最も大事なことであり、これを実現するためには、ライフスタイルはいろいろなので、多様性への理解と調和という部分が必要になってくる。個人の人権尊重というものに大きく関わってくると思われるため、そのような視点もどこかに取り入れて欲しい。

委 員 : いろいろな所で話を聞くと、PR不足などがあると思われるが、これをもっと重点的に計画してもらえればよいと思う。出生率が国の基準では2.07とあるが、それを目標にしていくのが全国だと思うが、その中で診察に行きやすい、行政に相談しやすい、地域も理解しやすい、絶対子どもを産まないといけないということ強くは言えない世の中だが、産みたくても産めない状況の家庭もあるが、その中では地域の理解が一番必要だと思う。その中で医療機関を利用しやすいなど、キャッチとして「〇〇しやすい柏崎」など「らしさ」をPRしていけたら良いと思う。

会 長 : 何々をしやすい、「しやすさ」ということは非常に重要なキーワードかも知れない。人口減少のグラフを見ると、非常に厳しい数値だと思う。子育てというキーワードがあるが、育てる前に出産というテーマがある。年間400人の赤ちゃんが生まれているという話があった。里帰り出産というのがあり、住民票はたぶん柏崎にはおかれませんが、柏崎で生まれた人が柏崎に戻って出産する。こういう女性にもっと手厚く支援しても良いのではないか。将来的には家族みんなに戻ってきてもらえるよう、柏崎での出産はすごく良かったと感じてもらえたら良いと思う。出て行った学生が戻ってくるような、大きな着眼点で見ること重要だ。戻りやすさみたいなものがあると良い。「やすさ」をキーワードにしたらどうか。

委 員 : 一企業において、この春、90人ほど希望退職した。その再就職先は市内の企業もあったが、上越市に大きな工場ができて、そこに結構な人数が流れ、住民票を移した人もいるとのことである。やはり、働き場所は大事だと感じる。長岡技術科学大学は地元企業と提携して、いろいろな開発をしている。せっかく新潟工科大学があるため、さらに市内企業と連携し産業のイノベーションを進めていくと良

いと思う。大学側から企業に対していろいろなヒントを与えてくれると良い。

委員：里帰り出産についての話があったが、地元就職口がないと家族でというわけにはいかない。このため、柏崎にはこういう産業、就職口があるということをしつかり周知するのが望ましい。

先ほどの意見にあった、基本構想における基本方針に子ども、若者、女性、高齢者があるが、大事なことは市民全員が輝いて過ごせるまちを目指すことではないか。ここには市民を挙げてと記載され、子どもたち、若い世代、高齢者はもっともであるが、その背景には市民全員があつて、市民全員がいきいきと働いたり、過ごせたりするまちを目指すというのが大前提だ。委員意見を聞いてそのあたりが大事だと感じた。

会長：分野別施策の基本方針にある施策の方針の修正はまだ可能か。

事務局：可能である。

委員：先ほどの新潟工科大学とのつながりについては、市内の病院と連携を図って医療関係の機具の改良を進めている。もう少し見える形にしたい。皆さんにも工科大へ来ていただき、質問や意見を出してもらいたい。それが学生達にとって、もっと地元と知り合うきっかけになる。

委員：（柏崎信用金庫では、）新潟工科大学と新潟産業大学と連携して、地元の企業支援に取り組んでいる。営業担当が大学に行き、先生方がどのような研究をしているのか情報収集している。それで企業が困っていることを大学の知見でなんとか解決していこうということを進めている。

委員：そうした活動をもっと分かってもらうことが重要だ。

会長：以上をもって審議を終了する。

(3) その他

今後の開催予定 第4回 9月2日（木） 15：00～17：00

第5回 10月6日（水） 15：30～17：30

(4) 副会長挨拶

(5) 閉会